

坊っちゃん98号 同窓会

Q:松山城にいろんなところにハートをあしらったデザインがあります。

一般言われるハートマークは明治に入ってから西洋から入って来ました。

では、松山城のハートマークは何んでしょうか？

A:実は、日本にも古墳時代(倒卵型鏝)からハートマークが存在していたと言われていました。神社仏閣などにみられるハートマークには次の5つつの願いが込められているそうです。

1. 魔除け

日本古来のハートマークは「猪の目」と呼ばれていて、猪の目をかたどった象徴だと言われていました。「猪の目=獣の目」ということで、その眼力によって魔物を追い払うと言われていました。

2. 火災魔除け

亥は陰陽五行説では水性に当たり、火災から逃れるという信仰が有ります。このため江戸時代の庶民の間では、亥の月の亥の日を選び、囲炉裏(いろり)や炬燵(こたつ)を開いて、火鉢を出し始めた風習ができました。茶の湯の世界でも、この日を炉開きの日とし、茶席菓子として「亥の子餅」を用います。亥の子餅を食べて、火災の厄除け、子孫繁栄を願う。

3. 子孫繁栄

猪は多産であることから、子孫繁栄の願いも込められています。

4. 招福

猪の目のモチーフとして梵字の「い」の字が変形したとも言われており、その梵字をもつ帝釈天のご加護が得られると言うことで招福の力があるとも言われています。

亥の子餅と源氏物語

宮中の年中行事のひとつに「猪子祝(いのこいわい)」がありました。「猪子祝」は旧暦十月の初亥の日の祝いの行事で、玄猪(げんちょ)とも呼ばれます。中国伝来の風習で平安時代の宮廷に取り入れられました。

旧暦十月初亥の日の亥の刻(午後9時~午後11時)に餅を食べると万病を除くといれ、この餅を「亥の子餅」(玄猪餅とも)といいます。かつては「亥の子餅」を贈り合って祝いました。

亥の子餅は、七種の粉(大豆・小豆・大角豆(ささげ)・胡麻・栗・柿・糖(あめ))を混ぜて作られていました。

『源氏物語』(源氏物語 第9帖「葵」)では、光源氏と紫の上の新婚第二夜に、亥の子餅が登場する場面があるそうです。読んでみて下さい。